

せんなんネットワーク

第126号

発行：みやぎ地域づくり団体協議会仙南支部

会員活動紹介

絵本読み聞かせの会おむすびころりん（柴田町）



令和3年船迫公民館にて

「絵本読み聞かせの会おむすびころりん」は、子育て中の母親たちが「子どもたちに絵本の楽しさを伝えたい」との思いから読み聞かせを行ったのが始まりで、会発足から32年が過ぎました。設立当初は毎月第2土曜日に、地元の生涯学習センターを会場に絵本の読み聞かせと季節の行事や遊びを取り入れ、子どもと一緒に楽しく遊びました。お餅つき大会の参加者が100名を超えることもあり、会員は朝からてんてこ舞いでした。

やがて、船迫小学校の朝読書の時間に低学年のクラスで読み聞かせをするようになり、2005年には全学年で実施となりました。その後、西住小学校でも全学年で読み聞かせをしています。東日本大震災の直後には、津波による被害が甚大だった山元町の避難所に絵本を持って行きました。日常を奪われた人々に対し、私たちにできることは子どもたちに楽しい絵本を届けることだと思ったのです。外で大型絵本を読み、一緒に駆け回って遊びました。学校再開後は毎週小学校と子育てサークルへ通いました。

これらの活動を評価いただき、2015年に「野間読書推進賞」（読書推進運動協議会主催）を受賞、8人で東京での受賞式に参加しました。一生忘れることのない楽しい思い出です。もう一つ忘れられないのは、結成25周年記念に柳田邦男さんをお招きし講演会を開催できたことです。柳田さんが「大人に絵本を！」とお話してくださいました。



令和3年7月船迫公民館にて七夕飾りを作成

現在はコロナウイルスの感染拡大により、活動を休止する機会が多くなっていますが、感染が収束したら、面白い絵本を探し子どもたちと一緒に心行くまで楽しみたいと思います。また、月1回行っていた絵本の学習会も再開し、絵本のある心豊かな生活を取り戻したいと願っています。

ただ今、一緒に活動する仲間を募集中です。老若男女を問いません。絵本と子どもの好きな方、私たちと一緒に活動しませんか！楽しいこと間違いなしですよ。（文：白内恵美子代表）

地域おこし協力隊として活躍する隊員の方々を紹介します

○最初に、七ヶ宿町の無限陶房で活動しているお二人の隊員を紹介します。

無限陶房は、1997年京都在住の陶芸家近藤高弘がプロデュースした七ヶ宿町の西山学院高等学校に登り窯が築窯され毎年全国から七ヶ宿町ファンが集まり陶芸を楽しむワークショップが開催されておりました。

東日本大震災の際に2,000個余りの命のうつわを制作し被災地に配布をきっかけに、陶芸での町おこしと、若手陶芸作家の育成を目的に近藤を中心に地元有志と町の協力により無限陶房合同会社が設立されました。

現在は七ヶ宿道の駅敷地内の無限陶房で電気窯3基と西山学院高等学校の登り窯にて焼成した作品の展示、販売をしております。



七ヶ宿焼東北炭流し（商標登録）
の製作風景



手がけた作品を手にする石田隊員

ひろやす
今年度で就任から3年目となる石田浩康隊員は、愛知県の出身で、大学ではプロダクトデザインを学び、鑄込み（型に粘土を流し込み成形する手法）により、花器などを製作しています。その他にも大学で学んだ知識を活かし、パンフレットのデザインなども手がけています。

製作から販売まで手がけることで、お客様の顔が見える活動ができることに手応えを感じているとのこと。冬のウィンタースポーツを中心に、自然に近く静かな七ヶ宿町の暮らしも楽しんでいるようでした。

次に紹介させていただく栗原和十隊員は、今年度から隊員となった方です。栗原さんは益子焼で有名な栃木県益子町の出身で、窯業技術支援センターに

在籍中に、益子町の陶芸家の方を通じて無限陶房のことを知り、隊員として活動を開始しました。

自然素材を用いた釉薬について熱心に研究中で、七ヶ宿町ならではの風合いを求めて試行錯誤中です。地元の原土を用い、地元の自然素材を釉薬の原料として陶芸ができる場所はあまりなく、貴重な経験をさせてもらっているとのことでした。

登り窯は1回でご飯茶碗を約1,000個焼くことができる容量の窯で、年に3～4回焚くそうです。一度火を入れてから3日間昼夜交代で管理を行い、火を消して1週間ほど経ってから作品を取り出します。

無限陶房では3～4ヵ月に一度、窯出し陶器市も開催しています。風合いの良い好みの作品に出会えるかもしれませんので、機会があったら訪れてみてはいかがでしょうか。



試作を手にする栗原隊員

無限陶房の情報はこちらから→



〇次にご紹介するのは、白石市移住交流サポートセンター109-one（トークワン）を拠点に、シャッターアート^{ちおん}の制作による地域活性化を目指している清水智園^{ちおん}隊員です。



第4作「雄大なる白石」と清水隊員

作していったそうです。

また、地元の人に、シャッターアートを見るだけでなく、制作を体験してもらいたいとの気持ちから、4作目「雄大なる白石」の制作には白石中学校の総合文化部生徒さんにも参加してもらいました。現在も制作中の5作目「白石の魅力」においては、生徒さんが主体的にデザイン、色塗りをを行い、清水さんはアートディレクターとして関わっているそうです。

清水隊員は今年度が3年目であり、この3月で隊員を卒業されます。卒業後も当市にお住まいになり、昔からの夢だったアート教室の開業を目指されるそうです。そして、隊員卒業後も、シャッターアートの活動が継続していけるようにサポートしていきたいとのことでした。清水隊員、3年間お疲れ様でした。

清水隊員は、もともと東京で石彫活動をしていました。ご主人が先に白石市に転居していた関係で、隊員になる以前から何度か当市を訪れていた中で、のびのびと製作活動ができる環境だと思い、当市へ移住し協力隊員になることを決めました。

シャッターアート活動の1年目は地元縁がないことから描かせてもらえる場所が見つからず、実行に移せなかったそうです。2年目に入ると自治会長からの依頼があり、これが最初で最後の機会かもしれないとの気概で1作目「風の向こう側」を制作したところ、人の縁が繋がって2作目3作目と制



第5作「白石の魅力」

令和3年度仙南圏域地域おこし協力隊交流会 With 丸森町定例会を開催

令和3年12月1日に、丸森町の「蔵の郷土館 齋理屋敷」を会場に、仙南圏域地域おこし協力隊交流会を開催しました。本交流会は、仙南地域で活動している協力隊員の市町の垣根を越えたつながりづくりを推進するもので、今回は丸森町の隊員が集まる定例会と併せて開催し、5町から計16名の隊員にご参加いただきました。

講演では、元白石市地域おこし協力隊で、現在は、宮城県地域おこし協力隊として活躍されている竹田祐博^{よしひろ}隊員に、白石市での3年間や地域との関わり方についてお話をいただきました。講演後はグループに分かれ隊員同士での情報交換を行い、現在の活動や感じている課題などが話し合われました。



情報交換中のアイスブレイクの様子

令和3年度みやぎ地域づくり団体協議会支部委員会 書面開催

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から支部委員会を書面にて開催しました。今年度は2年に1度の役員改選があり、計6年間支部長を務めていただいた菊地重雄支部長（NPO 法人川崎町の資源をいかす会）に代わり、白内恵美子副支部長（NPO 法人蔵王のブナと水を守る会）に支部長へ就任いただきました。

令和3年度みやぎ地域づくり団体仙南支部役員・委員体制（敬称略）

支部長 NPO 法人蔵王のブナと水を守る会 理事長 白内恵美子
副支部長 NPO 法人余白 代表理事 佐藤祥多, 大河原地方振興事務所 地方振興部長 遠藤尚志
監事 仙南地域広域行政事務組合 主幹兼企画財政係長 佐藤盛一
民間委員 南蔵王高原1・2・3の会 代表 津村経夫, さくらボードゲーム会 代表 高橋和成

事業計画で計画していた支部交流会については、新型コロナウイルスの流行が続いているため開催を見送りましたが、来年度以降も、引き続き地域づくり団体や地域おこし協力隊など地域づくりに参画されている方々が交流できるよう企画してまいります。

事務局からのお知らせ

情報提供に御協力をお願いします

仙南支部では、地域づくりに関するイベントや参加者募集など、皆さまからいただいた情報を支部ホームページに随時掲載します。また、チラシ等も県大河原合同庁舎をはじめとする管内の公共・集客施設等に設置します。

PRしたい情報がありましたら、下記の宛先までお送りください。

皆さまからの情報提供をお待ちしています。

会員訪問を実施しています

仙南支部事務局では、会員の皆様の活動状況等についてお伺いするため、会員訪問を実施しています。事務局から連絡させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本誌についての御意見や、当支部についての御意見・御要望等ありましたら、こちらまでお寄せください。（助成金についての申請・相談もこちらまで）

《みやぎ地域づくり団体協議会仙南支部事務局》

宮城県大河原地方振興事務所 地方振興部 商工・振興第一班

〒989-1243 宮城県柴田郡大河原町字南 129-1

電話 0224-53-3199 FAX 0224-53-3076

e-mail oksinbk@pref.miyagi.lg.jp

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/oksgsin-e/tiikidukuriindex.html>



仙南郷土料理「おくすかけ」

次号は令和4年11月頃発行予定です